

河越流鏑馬と日本在来馬

「馬」と聞くと競馬などで見かける「サラブレッド」を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、日本には古来からの在来馬がいることをご存知ですか。

昨年11月、国指定史跡河越館跡にて開催された河越流鏑馬では、河越氏が活躍していた鎌倉時代の古式流鏑馬を再現するため「和駒」と呼ばれる日本の在来馬が使われました。和駒は、野性的で精神的に強く、一度乗り手を信頼すると忠誠心を見せてくれるそうです。

和駒は、サラブレッドより小型で背が低く、長めの頭部、太い首と肢が特徴で、全体的にがっしりとしています。また、足腰が強く、右前足と右後足、左前足と左後足を同時に前に出す「側対歩」と呼ばれる歩き方ができるそうです。上下動の少ない、馬上から弓を射るのに適した歩き方と言えます。今年の河越流鏑馬は11月17日(土)に開催されます。和駒を間近で見ませんか。



写真は2枚とも昨年の流鏑馬の様子。馬を勇壮に見せるため、三懸(さんがい)と呼ばれる化粧まわしでりりしく馬装され、迫力ある走りを見せました。



パンジー、ビオラ

花の色が豊富なパンジー、ビオラは晩秋から春にかけて花壇を彩ります。日本では大きな花を咲かせるものをパンジー、小さな花を多く咲かせるものをビオラと呼んでいます。

川越は県内第1のパンジー、ビオラの産地で、その品質は東京の市場でトップクラスの評価を受けています。市内の農家で組織される鉢物



風と光を多く取り込むため、交互に植えてスペースを確保

部会会長の坂本純一さん(今福)は、栽培を始めて10年目。現在500坪ほどのハウスで10色のビオラを栽培しています。「色がよく出て、厚みのあるしつかりとした花になるように、土づくりや換気などに気を遣います」と坂本さん。園芸用に育てる場合のコツを聞くと「屋外の場合、11月下旬頃までに苗を植えると、低温に耐えて春ごろまで楽しめます」。



黄色が一番人気

プランターでも簡単に栽培できるパンジー、ビオラ。色とりどりの花で自宅を飾ってみませんか。

編集後記

どんぐり

市立美術館には、誰でも利用できる「市民ギャラリー」があります。市民の皆さんをはじめ多くの方の作品発表の場であると同時に、気軽に美術作品を観覧できる展示スペースです。半面利用での小規模展示や、全面を利用した本格的な展示をすることができ、(要事前予約・利用料)。

市民ギャラリーでは、市制施行90周年を記念し、11月28日(水)12月2日(日)、午前9時～午後5時(最終日は午後3時まで)に次の展示を実施します。芸術の秋。さまざまな美術作品に触れられる、同ギャラリーに足を運んでみてはいかがでしょうか。観覧は無料です。

かわえの未来予想図 作文・絵コンクール

同コンクールの入賞作品の展示。

姉妹友好都市児童生徒絵画展 国内外の姉妹友好都市の児童生徒の絵画作品の展示。